

平成 29 年度第 2 回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時 平成 29 年 12 月 8 日（金） 9：30～11：00

○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

○出席者氏名

- | | | | |
|----------|-------------------------|----------|--------------------|
| ・木村 茂委員 | (市小学校長会) | ・黒後 洋委員 | (宇都宮大学) <会長> |
| ・黒川 浩委員 | (市中学校長会) <副会長> | ・平野 勝委員 | (篠井地区ゆたかなまちづくり協議会) |
| ・田辺 陽子委員 | (市 P T A 連合会) | ・瀬田 正幸委員 | (県林業センター) |
| ・五十嵐市郎委員 | (市子ども会連合会) | ・坂内 剛至委員 | (有限会社ネイチャープラネット) |
| ・櫻井 政義委員 | (市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会) | ・橋本 恵子委員 | (公募) |
| ・北條 成男委員 | (市レクリエーション協会) | ・寺島 玄委員 | (公募) |

(事務局) 狐塚 章一所長, 村山 弘樹副所長, 須田 浩太郎指導主事, 小林 真理指導主事

○欠席者氏名 古口 倭子委員 (県キャンプ協会)

○公開 (傍聴者の数 0 人)

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 報告事項

- 平成 29 年度事業経過報告について (ア学校受入事業, イ主催事業, ウ一般受け入れ事業)

事務局 : (資料にそって説明)

会長 : ご意見ありましたらお願いします。

寺島委員 : 猪や虫, 野獣関係について, ヤマビルはどうか。また, リーダーバンクは個人での利用はできるのか。そして施設の対応についてであるが, この施設はクオリティーが高いと思っている。危険個所の表示や注意書きの案内看板が多い所もあるが, ここはそういった表示が必要最低限に抑えられている。事故報告を見ても, 注意を促す警告等の表示や手すりなどの工夫がされており, 効果的であると思う。

事務局 : ヤマビルについては今年度の報告はない。リーダーバンクについては, イニシアティブゲームとネイチャーゲームで利用いただいている。個人での要望があった場合にも, 受け付けている。イニシアティブゲームについては, 参加人数が少ないと実施できないこと, 指導員 1 人につき 5,000 円の支払いとなることを承諾していただいた上での利用となる。イニシアティブゲームでは, 7~9 名で協力しながら課題を解決していく。利用は団体の方が多い。

瀬田委員 : ヤマビルについてだが, 媒体は二ホンジカである。県内では, 日光, 鹿沼, 佐野, 足利方面に広がっている。駆除など対応を行っているが, なかなか難しい。この辺りにはシカは常時いるわけではないので, ヤマビルはいないと思われる。

会長 : リーダーバンクについてだが, 指導者合計 150 人くらいとあるが, これは延べ人数であって, 実際は同じ方に依頼しているのか。また 5,000 円に上げたというのは今まではいくらであったのか。1 団体につきの料金か。

事務局 : 以前は指導者 1 人につき 2,500 円~3,000 円であったが, 指導者の確保が難しいという課題があり, 1 人につき 5,000 円とした。

会長 : 5,000 円がそのまま, リーダーバンクの方の指導料となるということか。その額はこちらで設定してよいのか。

事務局 : そのまま, 指導料となる。指導料金は, こちらで設定して問題ないと考えている。

会長 : 多い時には, 20 名が指導者となっているが, これは, 冒険活動センターでネットワークをもってこれくらいの人数を確保できるということか。

事務局 : この 20 名とは, 午前, 午後を合わせた延べ人数である。実際の指導員は 10 名で実施している。

会長 : 10 名くらいであれば常に用意できるということか。

事務局 : そうである。

会長 : 7 ページに一般利用の方の意見・要望等があるが, この対応についてはどうしたらよいか。対応できるものと, できないもの, 施設の理念上, 少し意見が違うのではないかといいものもある。3 歳児の料金が高いという意見もあるが, これは寝具を使わなければ

3歳未満は無料であるが、3才以上で寝具を利用すると、中学生以下の料金となる。一般の人からすると中学生と3歳が同じ料金というのは高いと感じるのではないか。料金設定については、ここで議論して決められることではないと思うが、市に意見として挙げて検討してもよいのではないか。ここは、一般か中学生以下かという料金設定のみだが、体育館など他の施設ではどうなのか。

- 事務局 : 体育館は、時間での貸出料金となっている。
- 会長 : 宿泊を伴う本施設とは利用形態が異なるということか。市民からこういった意見があったということで検討してみてもどうか。寝具についてはどのようにしているのか、古くなったら交換等しているのか。
- 事務局 : リース契約しており、古くなったものは適宜交換している。
- 五十嵐委員 : 要望に対して、公開はしているのか。例えば、園内にセンターからの回答として掲示をするなど、一般の方に対して見られる場があれば、同じような質問をすることはなくなるのではないか。
- 事務局 : 一般の方々からのアンケートについては、この運営協議会の場で公表させていただいているが、園内の掲示等を行っていない。また、メール等で質問があった場合には、メールにて回答している。
- 五十嵐委員 : 市民に公開するのがよいのでは。なかなか答えづらいものもあると思うが、早急に公開する必要もあるのではないか。
- 事務局 : ホームページ上では「よくある質問」として意見・要望にあるような内容を掲載して対応している。
- 北條委員 : アンケートの個々への回答はしていないのか。
- 事務局 : アンケートを書かれた方への回答は行っていない。
- 会長 : 答えられるものについては、情報公開もよいのでは。ホームページをどれだけ利用者が見ているか分からないので、園内に掲示することもよいのではないか。返答が難しい意見もあると思うが。
- 櫻井委員 : 我々は、「キャンプは、不便さを楽しむもの。」という感覚でいる。利用者の方にやさしく伝えていけば、自分たちで工夫することも考えていただけるのではないか。
- 会長 : 駐車場からの距離を「よい距離だ」ととらえる方もいれば、「遠い」ととらえる方もいる。バーベキューなどで利用している一般の方に、理解いただくことはなかなか難しい。
- 北條委員 : 山とまちとの境界のけじめをつけるとよいのでは。例えば、駐車場から来る際に、利用の前に、自然の音を聞かせる時間を設け、ここから山だという意識づけを行う。「山では、明るくなったら動き、日が沈んだら寝る。」というように説明する
- 会長 : ここから非日常だというアナウンスを行うというご意見である。
- 北條委員 : 自然はおもしろいとアナウンスすることで、理解いただく。関所のようなものを作って門番のようなものが駐車場にて説明する方法ではどうか。
- 会長 : ご意見ありがとうございます。

(2) 協議事項

- 平成30年度事業計画(案)について(ア 学校受入事業, イ 主催事業, ウ 一般受入事業)
 - 事務局 : (資料にそって説明)
 - 会長 : 12月に日曜日からの受け入れがあるが、その点はいかがか。
 - 事務局 : 利用調整委員会において検討いただいた。地域行事や登校の面など、問題点も考えられるが、実施可能ではないかというご意見をいただいている。
 - 会長 : その他いかがか。
 - 木村委員 : 本校は、平成30年度から新たに加わる地域学校園での実施校である。今までは小学校のみで同日実施で連携を行ってきたが、中学校も加わり学校園で実施する。今後は、このような傾向で可能な限り地域学校園で実施していくのか。
 - 事務局 : 瑞穂野地区も地域学校園で実施いただいていたが、瑞穂台小学校の人数が増えたため、今年度から中学校と小学校で分かれて実施した。児童生徒数の推移をみながら、ロッジやテント等の宿泊施設で受け入れ可能な限り、地域学校園での実施を計画している。
 - 木村委員 : 冒険活動教室は、小学校5年生と中学校1年生で行っている。児童生徒の立場からすると、小学校6年生を挟んで3年間の中で2回経験することになり、小学校5年生で経験した子たちが小学校を卒業し、中学校1年生として再度実施する。他の行事等を考えても、連携がとれる学年同士であり、学年設定が良く、地域学校園での実施は大変意義深い。また、先ほど防災教育の視点からという説明があった。岡本北小は、2年間安全教育の研究を行ってきたのだが、ここで学べる防災教育とは、具体的にどんなものなのか伺いたい。それから、本校は今年度最後の冒険活動教室の実施校である。非常に日程が厳しいところではあるが、前回の運営協議会でご説明いただき、全校の日程を考えると

やむを得ないことが理解できた。また、主催事業等についてだが、資料4ページ「ちびっこキャンプ」「もりであそぼう」「冒険キャンプ」「森のレストラン」など非常に応募数が多いと説明があった。「ちびっこキャンプ」「冒険キャンプ」は抽選であるが、「もりであそぼう」「森のレストラン」は先着順であり、しかも「森のレストラン」ではリピーターの応募があったそうだが、公平性という観点からいかがか。人気が高い中で、公平性の確保をいかに行っていくかというときに、先着順にしてしまってもよいのか。また、先着順の応募の方法はどんな方法か。

- 事務局 : 電話のみの応募である。
- 木村委員 : 先着順で電話という応募方法、抽選における応募期間、またリピーターも含めてしまってもよいのかという点について、明確な根拠があるのかお聞かせいただきたい。
- 事務局 : まずは、防災教育の視点についてだが、防災教育の視点から実施できそうな活動がいくつかある。火おこし、基地づくりキャンプについては、枝など自然なものを活用して実施することができる。また炊飯場ではなく、基地づくりキャンプを行っている森の中なかまど作りを行い、工夫して調理をするチャレンジ料理などがある。またソロキャンプやアリーナでの宿泊も防災の視点に合っていると考えられる。学校と相談の上で組み合わせさせて実施できればと考えている。主催事業についてだが、「ちびっこキャンプ」については、往復はがきで、多くの方に応募いただいている。24名というのは、参加者が安全に活動・生活するために支援できる最大人数である。「もりであそぼう」「森のレストラン」は電話のみ先着順で応募である。昨年度は、電話とFAXでの応募であったが、電話とFAX両方だと、どちらが先着か分かりにくかったため、今年度電話のみとした。「もりであそぼう」は募集開始日が祝日であったが、「森のレストラン」は平日であった。ご指摘いただいた通り、公平性の確保の観点から、検討していきたい。良い方法等ご意見いただけるとありがたい。
- 会長 : 公平性の担保、また予算等考慮し、何がベストであるか。抽選でも葉書か電話で異なる。電話の場合、期間中ずっと対応することになり負担が大きいか。
- 寺島委員 : 電話での応募は、不公平であると感じる。仕事をしている方は、応募開始の9時にかけてることができない。また、広報うつのみやの場合、新聞をとっている方は応募開始時刻に間に合うが、新聞をとっていない方は郵送のため、開始時間に間に合わないことがあるため、公平性を欠いていると思われる。葉書での応募がよいのでは。
- 事務局 : 広報うつのみやは毎月1日の発行となり、1日にはほとんどの家庭に配付されているが、郵送ではそれ以降になる家庭もある。先着順での応募の場合、3日以降の募集開始とするようにしている。今年度の「もりであそぼう」は11月3日から、「森のレストラン」は12月5日からの受付としている。開始期日については配慮しているが、9時からの電話先着という点では、ご意見いただいた通り仕事等により申し込みができない方がいると考えられるため、検討し改善していきたい。
- 会長 : 現状でも「冒険キャンプ」「ちびっこキャンプ」については往復はがきでの応募である。どこまで応募がくるのかという点でも違いがある。
- 橋本委員 : 公平性の点から、抽選になった場合には、応募者に初めての方を優先する旨、告知してあげるとよいのではないか。
- 会長 : 申し込み方法に「申し込み多数の場合は、初めての申し込みの方を優先する」といった文面を載せるとよいのではないか。ただ載せ方は慎重に検討した方がよい。全体的に一般公募事業は申し込みが増えていっている状況か。
- 事務局 : 全体的にそうである。
- 会長 : その他いかがか。
- 平野委員 : フェスティバルに地元の方があまり参加していないことが毎年気になっている。回覧などは篠井地区に回っているのか。できれば回覧して周知し、地域の活性の場としたい。
- 事務局 : 回覧は行っていなかったもので、今後回覧していきたい。
- 瀬田委員 : 林業センターの木工機材を利用いただいている。林業センターでは、端材がでるので薪や木工の材料として、有効利用いただければ。また、木工の指導ボランティアや子どもたちに間伐体験の指導を行う「グリーンスタッフ」というボランティアもいるので、そういったスタッフ派遣の面でも協力できるかもしれない。
- 事務局 : ありがとうございます。
- 田辺委員 : サルなど小動物等のニュースあるが、目撃情報などは子どもたちや利用者に伝えているのか。
- 事務局 : サルやイノシシの目撃情報などがあった場合、利用中の学校の先生方にお伝えし、特に夜間など注意いただくようにしている。また、一般の方にも受付時などにお伝えしている。サルについては、今年度目撃情報はないが、イノシシは園内に足跡等がみられるため、情報提供を行っている。

- 会長 : 保健室の怪我等の状況については、例年や前年度と比べてどうか。
事務局 : 昨年度は481名の利用があった。今年度は467名である。
会長 : 毎年400～500名程度か。虫刺されが多い。
事務局 : 虫刺されは、ブユに刺されて来室することが多い。一度刺された児童生徒が、複数回来室するため、延べ人数が多くなっている。
黒川委員 : 調査研究の「体験活動」とは、「自然体験活動」のことか。
事務局 : そうである。
黒川委員 : 調査研究をぜひ積極的に進めていってほしい。自然体験活動が道徳性に与える影響についての研究は、大変興味深い。自然体験活動が非常に少ないと言われる中で、それに道徳性がどう関わるかという研究は、新しい学習指導要領とも関連し研究を進めていってほしい。規範意識との関わりなど道徳性に関していろいろな切り口で分析していただくとよいと思う。
会長 : ぜひ大学と連携しながら、積極的に研究を進めていってほしい。体験活動を行った直後は大きな効果があるが、1年後、2年後はどうかということも報告があるとよい。分析結果の報告をよろしくお願いします。

4 その他

- 会長 : いただいたご意見を生かして今後事業をすすめていただきたい。

5 閉 会